

既存野生生物保護センターリニューアル事例の紹介

「釧路湿原野生生物保護センター」 展示等改修設計

北電総合設計株式会社 建築部建築設計室 係長 小泉裕美

はじめに

平成五年四月に施行された「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）に基づき、国内では野生生物保護センターが八施設設置されている。

また、環境省の近年の方針として、野生動物との出会いが体験できる野生動物観光を、訪日外国人旅行者への訴求力の高い体験型観光コンテンツとして推進する取り組みが始まっている。

弊社では、環境省釧路自然環境事務所の発注により「釧路湿原野生生物保護センター」の展示等改修設計を受注し、令和三年八月にはリニューアルオープンに至っている。本稿では、既存野生生物保

護センターのリニューアル事例として、北海道東地域における野生動物観光拠点の位置付けも含めた再整備設計業務の経緯や内容を紹介する。

地域の特性

北海道東地域には、今回対象施設の釧路湿原野生生物保護センターがある釧路湿原国立公園を含め、広大な自然環境をもつ三つの国立公園が連なり、北海道内でも屈指の観光エリアである。周辺に空港や高速道路、駅、港が整備された釧路市においては、北海道東地域の観光拠点としてアクセスがしやすい立地となっている。

釧路湿原は広大な水平的景観を特徴としており、昭和六二年に二八番目の国立公園に指定されてい

る。湿原の大半はキタヨシ・スゲ類・ハンノキ林からなる低層湿原であり、一部高層湿原や、蛇行する河川、湖沼群などさまざまな環境を含んでいる。また、タンチョウ等の希少な野生生物が生息している。

対象施設の特徴

釧路湿原野生生物保護センターは、平成五年に開館され、北海道全域で発生する希少鳥類の傷病個体を収容し、治療やリハビリ、野生復帰への取り組みを行うと共に、原因究明に努めている施設である。また、主な収容種である大型希少鳥類の生態情報や保全の取り組み、人為的な事故の現状等について紹介している展示施設である。

築後二〇年以上経過しており、経年変化による自然環境や展示手法にあわせた展示施設の更新が必要であるため、環境省が取り組みを進めている野生生物観光拠点として全体再整備を行うこととなった。

改修設計の紹介

①全体再整備について
新築後から使用状況にあわせ、

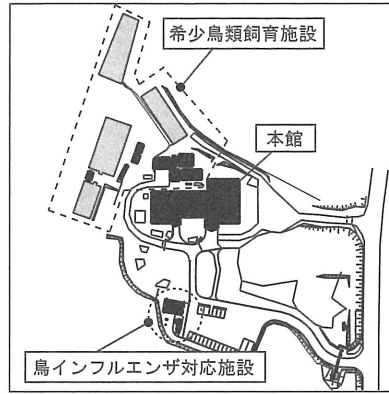
希少鳥類飼育施設として小規模な建築物等が増築されていた。敷地全体の配置にまとまりがなく、プレハブ等施設の一部が来訪者の視界に入る環境であり、観光施設として配慮されていない状況であった。

まず、全体再整備計画として、建築基準法の取り扱いや解釈について改めて整理し、釧路市と協議を行った。支障物となる既存建築物等の解体・撤去の他、鳥インフルエンザ対応施設の移動可能なトレッラーハウスについても法的整理を行い、常設建築物として新築する提案を行った。大型および中型ケージについては、構造部材の寸法測定等も含めた現地調査を行い、法の取り扱いに関する報告書を作成した。

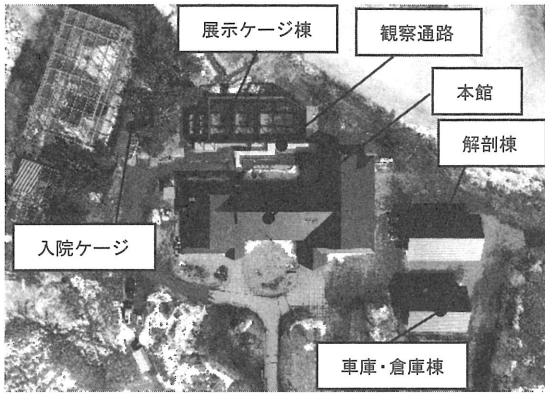
今回改修にあたり、環境省および施設管理運営受注者、弊社の三者による現地確認や使用実態の聞き取りを行い、何度も協議を重ねた。研究施設として、本館研究施設の内部改修、解剖棟、入院ケージ、車庫・倉庫棟の新築を計画した。観光施設として来訪者の見え方に配慮し、本館にあわせた外観デザインを採用した。展示施設と

しては本館展示室の改修、見学ツアーを行う展示ケージ棟および観察通路の新築を計画した。

既存で個々に配置されていた増築施設を使用用途にあわせて棟ごとにまとめ、既存本館近傍へ集中させる全体配置として整備し、研究施設としても展示施設としても



リニューアル前のセンター全体



リニューアル後のセンター全体

利用しやすい環境とした。

②本館展示室改修について

展示物の全体更新を行うにあたり、野生生物保護センターとして特化する展示計画とするため、周辺施設の展示内容調査を行い、コンセプトをまとめた。

入口にシンボル展示を設置し、他にも体感展示や展示空間にストーリー性を演出した大人も子どもも楽しめる計画とした。また、研究施設として当センターの保護および保全活動の取り組みを紹介し、一般の方や専門知識をもつ方にも学ぶことができる計画とした。

既存展示室が非常に暗かったため、内装仕上改修を行うと共に、全体が見渡しやすい明るい展示空間を計画した。



リニューアル後の展示室

間を計画した。

③バックヤードツアーについて

希少猛禽類の取り巻く現状や当センターの役割に関する理解を深めてもらうことを目的として、これまで非公開であった飼育ケージの一部や処置室を見学する有料のバックヤードツアーを行う計画とした。ツアーを展示の一部とし、新たに野生復帰のできない終生飼育個体の飼育ケージを間近で見学可能な展示ケージとして設ける計画とした。展示ケージは、鳥類が人からのストレスを極力感じないように工夫を行った。

専門家の解説を聞きながら、人と野生生物の関わり等を学ぶことができるバックヤードツアーの収益は、一部を傷病個体の治療費や餌代に活用されている。

おわりに

国内の野生生物保護センターは設置数が少なく、初めて現地を訪れた際には、終生飼育個体が建物の裏に隠れたようにひっそりと飼育されており、物悲しい印象を受けた。今回のリニューアルにより、人と野生動物の関わり方を実感し、

保護・保全の意識を広めることへの一石を投じることができたと思う。

改修設計に関し、環境省および施設管理運営受注者の専門知識や経験からの助言を受け、傷病個体に対して個々に配慮可能な計画となった。大変貴重な助言に感謝すると共に、保護活動の大変さを感じた。

最後に本業務の実施並びに本稿の掲載に際し、ご理解・ご協力いただいた釧路自然環境事務所および施設管理運営受注者の関係者の皆様に深く感謝申し上げたい。

小泉 裕美 ●こいずみ ひろみ

北海道小樽市生まれ。一級建築士。二〇〇三年室蘭工業大学大学院 建設システム工学専攻卒業後、現職に至る。

【北電総合設計株式会社概要】

道内を中心に社会資本整備の「企画、調査、設計、施工監理並びに維持管理」に係る一貫した業務を行う総合建設コンサルタント。北海道電力グループ。